

作家・山崎豊子の「華麗なる」執筆秘話！



15th Anniversary (2009-24)

ナカノシマ大学2024年9月講座

生誕100年。最後の担当編集者が語る



上/『沈まぬ太陽』の取材で訪れたケニアの街角にてメモを取る山崎豊子
右/船場にうごめく人たちのバイタリティー溢れる生きざまを描いた短編集『しぶちん』と、飛躍の作品となった『白い巨塔』(いずれも新潮文庫)



9/28(土) 11:00~12:45

会場 大阪府立中之島図書館(3階多目的スペース)

受講料 2,500円(小学生以下1,500円) 定員 100名

講師 矢代新一郎(新潮社・元山崎プロジェクト室室長)

主催 大阪府立中之島図書館(指定管理者ShoPro・長谷工・TRC共同事業体)

企画協力 ナカノシマ大学事務局(株式会社140B)

協力(一社)山崎豊子文化財団、新潮社、文藝春秋、毎日新聞社大阪本社、ラジオ大阪

大作家の人間味溢れるエピソードが次々と。同時開催の「山崎豊子展」と一緒に

山崎豊子(1924~2013)は生涯を大阪で終えた作家です。舞台が船場の商家でも手術室でも銀行でも海外の戦場でも、生命力溢れる登場人物の生きざまは読者の心をわしづかみにしました。中之島図書館3階の展示室(ナカノシマ大学会場の隣室)では、9月4日(水)から28日(土)まで「生誕100年記念 山崎豊子パネル展」が開催されます。併せてお楽しみください。

今回は、作家が亡くなる直前まで東京から堺・浜寺の仕事場に通った最後の編集者が登壇し、彼が間近で体験した「息詰まるやりとり」や「人たらし・山崎豊子の殺し文句」などをたっぷりと披露してもらいます。

〈講師からのメッセージ〉

『白い巨塔』『沈まぬ太陽』『約束の海』……、最々晩年まで大作に挑み続けた不屈の国民作家、山崎豊子さん。大阪に通い、最後の担当編集者として間近で見た・聞いた・考えた、大作家のすべて——。「財前五郎はどんな男か」「山崎ドラマは歌舞伎?」「登場人物名前の由来」「鬼の執筆スタイル」「怖いモットー」「意外な素顔」、そして「何を最後に遺したかったのか」等々。

ドラマの裏話や発掘された「大阪大空襲を含む戦中青春日記」などのエピソードも交え、「山崎文学」魅力の数々と先生の人となり、様々な角度からお話します!

やしろ・しんいちろう 月刊誌記者、企画編集部編集長などを経て2009年に山崎豊子の担当編集者に。「山崎豊子 自作を語る」三部作である『作家の使命 私の戦後』『大阪づくし 私の産声』『小説ほど面白いものはない』を編集したのち、最後の小説『約束の海』を山崎豊子の手足となって担当した。没後に刊行された『山崎豊子スペシャルガイドブック(新潮文庫版は『山崎豊子読本』)』でも責任者を務める。



講師の矢代新一郎さん

※当日は会場で、新潮文庫『暖簾』『花のれん』『ぼんち』『しぶちん』『女の勲章』『女系家族(上・下)』『白い巨塔(1~5)』などを販売します。

→受講申込は、こちらのQRコードからナカノシマ大学のWEBで受付します。

※次回は10月17日(木)18時予定……「イクフェス10周年直前企画。描いて残したいあの建築物(仮)」

講師=コジマユイ(イラストレーター)

